

がん相談支援センターニュース

2023年度VOI.2

がん相談支援センターでは
若くしてがんと診断された方 (AYA世代) の支援をしています

AYA世代 Adolescent Young Adult

0-14歳 小児



概ね15-39歳 思春期
若年成人

心や体の発達、社会的役割の獲得など、さまざまなライフイベントがある時期

40歳以上の成人・高齢者



AYA世代役立つ情報サイト

AYA世代のがんとくらしサポート



若年でがんに罹患した場合、治療だけでなく、就学・就労や子育てなど様々な問題が生じる可能性があります。また、小児や高齢者ほど利用できる社会制度が少ないのも特徴です。

AYA 一般社団法人 oncology alliance AYAがんの医療と支援のあり方研究会

3ステップで簡単検索！

ステップ① QRコードを読み取る！ (※ID: @ayakenでも検索できます)

ステップ② LINEで「AYA研」を友達追加！

ステップ③ 知りたい内容をメニューからタップ、または検索！

QRコードで友達追加 ID @ayaken

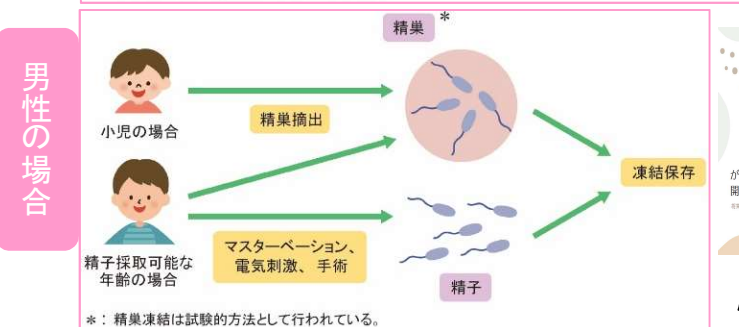
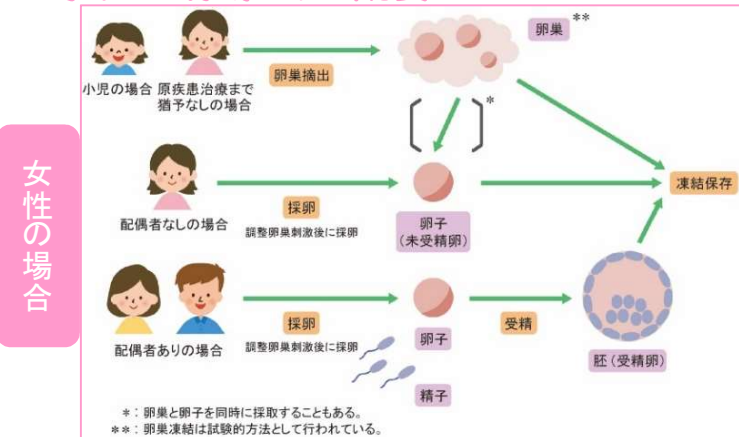
がんと共に生きる希望を支える AYA LINE公式アカウント

にんようせい

がん治療に関連した妊孕性温存療法とは？

妊孕性とは、「妊娠するために必要な能力」のことをいいます。(日本がん・生殖医療学会)
がん治療の中には、生殖機能(妊孕性)に影響を及ぼすものがあり、将来子供を授かることが難しくなる可能性があります。女性および男性としての役割を失う恐怖、将来の結婚や恋愛関係における不安、そして妊娠・出産だけでなく人生そのものを設計する上での困難を感じて苦しむ患者さんもいらっしゃいます。将来子どもを産み育てることを望む患者さんが、希望をもって治療に取り組めるよう妊孕性温存療法が行われています。がん相談支援センターでは、これらの情報提供や、妊孕性温存療法についての助成制度のご案内、生殖医療科との連携を行っています。

妊孕性温存療法の概要



広島県 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業のご案内

妊孕性とは、妊娠するために必要な能力のことです。がん治療の中には、生殖機能(妊孕性)に影響を及ぼすものがあり、将来子供を授かることが難しくなる可能性があります。女性および男性としての役割を失う恐怖、将来の結婚や恋愛関係における不安、そして妊娠・出産だけでなく人生そのものを設計する上での困難を感じて苦しむ患者さんもいらっしゃいます。将来子どもを産み育てることを望む患者さんが、希望をもって治療に取り組めるよう妊孕性温存療法が行われています。がん相談支援センターでは、これらの情報提供や、妊孕性温存療法についての助成制度のご案内、生殖医療科との連携を行っています。

広島がんネット

広島県では、妊孕性温存療法の助成制度があります。詳細は「広島がんネット」をご確認ください。

広島がんネット

がん治療による、生殖機能への影響は疾患や治療内容により異なります。ご自身の状況に該当するかどうかは、まず主治医に確認してみましょう。



必要に応じて各種パンフレット等をお渡ししています。

がん専門医よろず相談所

当院では、毎週火曜日にがんの専門医による無料相談を行っています。主治医に聞きたいけれど聞けないことや、主治医以外の医師の意見を聞いてみたい方などへ医師の立場で相談に応じます。

がん専門医よろず相談所 無料

橋本島がんセンター 名誉所長
相談医 児玉 哲郎 医師

日程 毎週 火 曜日 13時～16時

方法 面談(予約制)
電話でお申し込みください

オンラインによる相談も可能です

hph.pref.hiroshima.jp
県立広島病院 がん相談支援センター がん専門医よろず相談所



2023年度がんサロンの予定(11月～3月)

日程	テーマ	講師
11月17日 (金)	がんの3大治療の一つ 放射線治療を知ろう!	放射線治療科部長 土井 歆子 医師
12月8日 (金)	最新!子宮がん・卵巣がんの 治療と遺伝の話	産婦人科部長(兼)ゲノム診療科部長 白山 裕子 医師
1月24日 (水)	がんと上手に付き合うために ～ガイドラインを活用しよう～	がん専門医よろず相談所 児玉 哲郎 医師
2月21日 (水)	がん治療中のお金と制度のはなし	患者総合支援センター 楫賀 丈士 医療ソーシャルワーカー
3月13日 (水)	(座談会)話してみませんか? 普段ちょっと気になること	臨床腫瘍科主任部長 篠崎 勝則 医師 がんピアサポーター

当院のがんサロンでは、6名のがんピアサポーターが活動しています。

がんピアサポーターとは、自身あるいは家族ががんの闘病経験をもつ方々が、広島県がんピアサポータ養成研修を受講後、みなさんのご心配や悩みに寄り添う活動を行っています。

がんピアサポーターコラム

「チャレンジ」

ピアサポーターの清水です。10年前、乳がんの診断を受け、人生の大きな岐路に立ちました。その後も数々の大病を経験してきましたので、今回は、そこから得たチャレンジする気持ちと、私が選んだ生き方についてお話しさせていただきます。

去年、私は広島市内から周防大島へ移住をしました。島の豊かな自然との共存を楽しみながら、並行して広島市内でITインストラクターの職に携わっています。そのバランスを保つ事は肉体的には大変ですが、片道2時間の通勤時間さえ、生きている、生かされているという充足感で満たされています。

また、移住後は荒れ果てた土地を開拓し、新たにキャンプ場を作るというプロジェクトに挑んでいます。自然の中で心の休息時間を持つことや、挑戦することで得られるもの・・・成功だけでなく失敗からの学びや喜びを得る機会を、他の人にも体験してもらいたいと思ったからです。

病気の経験から、前向きに生きる気持ち、新たな挑戦をする勇気、人とのつながりの大切さを学びました。この経験が、後悔のない生き方を考える基盤となっています。人生は短く、一度きりです。これからもチャレンジ精神と感謝の気持ちを胸に、この貴重な時間を大切にしたいと思っています。



医療者も、がんを経験されたサバイバーのみなさんの生き様から学ぶことがたくさんあります。

お問合せ・サロン・相談のお申込み

県立広島病院 がん相談支援センター 082-256-3561

